

平成 30 年度下半期 造血細胞移植委員会活動報告

- 1) 平成 30 年度 日本小児血液がん学会・造血細胞移植委員会を 2018 年 11 月 15 日(木) みやこめっせ B 1 F 第三会議室にておこなった。新メンバー(加藤 格先生、日野 もえ子先生)の紹介をおこなった。後日、委員長推薦にて安井 昌博先生を委員として選出した。
本委員会で各委員の担当事案の進捗状況の報告と問題点を検討した。
- 2) 移植後ワクチン接種のガイドラインの有効性の検証について(佐藤委員、福島委員) 佐藤委員が中心となりハートリンクワーキングプロジェクトへの研究助成応募し、助成が認められた。現在、アンケートを作成中である。
- 3) 小児科において、長期フォローアップ外来の開設状況の把握と促進方法について平山委員が担当し調査、啓もうをおこなうこととなった。開設状況については福田班でなされていることから福田班と連携することが提案された。
- 4) 造血細胞採取ガイドラインの作成、末梢血幹細胞採取のドナーパンフレット作成について、造血細胞採取ガイドラインの作成
骨髄バンク、日本輸血・細胞治療学会、小児血液がん学会、日本造血細胞移植学会の 4 団体のガイドラインを融合し、国内共通の造血細胞採取ガイドラインを 4 団体の名前で作成することとなり、小児血液・がん学会の造血細胞移植委員会では井口委員が担当する。また引き続き井口委員が中心となり末梢血幹細胞採取のドナーパンフレットに可否を検討している。
- 5) 2018 年 韓国小児科学会において「日本における造血細胞移植の現状」として本委員会として講演した。発表者は橋井委員長が担当した。
- 6) TRUMP の改訂につき、森本委員とともに議論に参加し小児に対するデータ収集項目を担当した。また森本委員は本委員会の任期が終了しているが TRUMP データの改訂は継続性が高いことから TRUMP 改訂委員として了承してほしい旨理事長へ依頼した。
- 7) 小児ドナーの安全性調査に関する疫学観察研究について
2019 年 5 月末で約 100 施設、900 症例を収集することができた。現在、まとめている。
- 8) ミコフェノール酸モフェチル(セルセプト®)が GVHD の抑制に使用した場合に保険審査上認められることを保険診療委員会とともにアナウンスした。
- 9) 新委員である加藤委員、日野委員、安井委員には次回委員会時に各プロジェクトを発表してもらうこととなった。

以上

文責：橋井 佳子